

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第 57 回定時総会の報告	66
○2024 年度名誉会員の推挙	67
○第 29 期理事役職者の選定および会務分担	67
○2025 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	67
○2024 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集	68
○農業農村工学サマーセミナー 2024 参加者募集！	69
○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！ 2024”（再）応募締切 7 月 31 日	69
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	70
○CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—	70
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	71
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	71
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	71
○改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	73
○2025 年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9 月 30 日	73
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024 年 7 月から 2026 年 6 月までの編集体制と編集事務局	74
○第 79 回中国四国支部講演会および第 48 回地方講習会の開催案内（第 2 報）  講演原稿提出締切 9 月 2 日	75
○第 40 回ファジィ システム シンポジウム/FSS2024 の開催	76
○第 67 回理論応用力学講演会の開催	77
○混相流シンポジウム 2024 の開催	77
農業農村工学会論文集 内容紹介	78
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 	79
学会記事	81

会員のみなさまへ

引越しや転勤などで個人情報に変更のある方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡ください。

なお、会員専用サイトでも、登録された個人情報の確認と変更手続きができます。

第 92 巻第 8 号予定

展望：農業水利システムの省エネルギー化を取り巻く情勢の変化：桐 博英

小特集：農業水利システムにおける省エネルギー化の更なる推進に向けて

報文：灌漑システムの省電力化と更新事業の低炭素化のバランス：吉田修一郎ほか

報文：水需給を考慮したポンプ制御と再生可能エネルギー導入による灌漑システムの省エネルギー化に関する検討：中矢哲郎ほか

報文：ポンプ灌漑システムの省エネルギー化の検討：光安麻里恵ほか

報文：農業水利施設の省エネルギー化の効果の分析：田中卓二ほか

報文：水田ブロック一括水管理を目指した開水路での均等配水装置：岩瀬充季ほか

報文：低平地における配水槽式パイプラインの費用削減効果と課題：竹田宏太郎ほか

技術リポート

北海道支部：アスファルト表面遮水壁の劣化要因とひび割れ簡易補修工法：長谷川 光ほか

東北支部：農業用水を活用した小水力発電の普及拡大に向けて：瀬戸大輝ほか

関東支部：直角 V 字型減勢工による側方取水の設計と施工：三浦広大

京都支部：再生可能エネルギーを核とした農村地域振興：大原丞右

中国四国支部：プレキャスト擁壁によるため池改修工法の検討：嘉田吉晃

九州沖縄支部：ため池の適切な管理に向けたため池管理システムの導入：安東里菜ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2024年9月 10～13日	大会運営委員会	2024年度（第73回）農業農村 工学会大会講演会 ㊦	—	弘前市	91巻12号、 92巻1、2、3、6、7号
2024年10月 31日～11月1日	九州沖縄支部	令和6年度（第105回）支部大会 ㊦	—	福岡市	92巻4号
2024年10月 16～17日	中国四国支部	第79回支部講演会 第48回地方講習会 ㊦	—	鳥取県	92巻6、7号
2024年11月 19日	京都支部	第81回研究発表会 ㊦	—	奈良市	92巻4、6号

公益社団法人農業農村工学会第57回定時総会の報告

1. 日時 2024年5月29日（水）14：00～14：50

2. 場所 農業土木会館2階A会議室

3. 代議員現在数及び定足数

現在数 125名 定足数 63名

4. 出席代議員数 83名（内、出席3名、書面により議決権
を行使した代議員46名、委任状により議決権を代理行使し
た代議員34名）

5. 定足数の確認等

総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定
時総会の成立を確認した。

6. 出席役員

会長 平松和昭、副会長 奥田 透、専務理事 小泉 健、監
事 堀田昇克

7. 議長の選出

事務局提案の渡辺 巧代議員を全員一致で議長に選出した。

8. 議事録署名人の選出

議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、松田
祐吾、笹田勝寛の両代議員を全員一致で選出した。

9. 議案

決議事項

(1) 議案－1 2023年度事業報告

専務理事から同議案について説明があり、事業計画に
掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提
示案どおり全員一致で可決した。

(2) 議案－2 2023年度決算（案）

専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1
調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会
計の説明及び監事監査の報告があった。審議の結果、提
示案どおり全員一致で可決した。

(3) 議案－3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、22名の方の名誉会員推
挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致
で可決した。

(4) 議案－4 役員の選任

第28期役員の任期満了に伴い、第29期役員候補一人
一人の賛否について、次のとおり選任した。

理 事 20名

大上博基、大西絢子、奥田 透、加藤正明、小泉 健、
下平達也、白谷栄作、長坂貞郎、西村 拓、濱本昌一郎、
常陸孝一、平松 研、藤崎浩幸、堀野治彦、牧 千瑞、
松野 裕、森田孝治、山岡 賢、弓削こずえ、吉田修
一郎

監 事 2名

堀田昇克、重岡 徹

報告事項

(1) 報告事項－1 2024年度事業計画

専務理事から2024年度事業計画について説明があった。

(2) 報告事項－2 2024年度予算

専務理事から2024年度予算について説明があった。

議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14時
50分議案の終了を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び
議事録署名人がこれに署名捺印する。

2024年5月29日

公益社団法人農業農村工学会第57回定時総会
（議事録作成者）

議 長 渡辺 巧

署名人 松田 祐吾

署名人 笹田 勝寛

2024 年度名誉会員の推挙

2024 年 5 月 29 日に開催された第 57 回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。

これにより名誉会員の現在数は、264 名となりました。

新規名誉会員（敬称略）

上田隆茂，勝山達郎，中野拓治，林田直樹，水見 洋，

有本恒夫，牛野 正，大西亮一，金井太二郎，兼子健男，
櫻田浩二，清水正義，高嶺 彰，竹内兼蔵，田中 勉，
谷岡健則，中川敬夫，新原正樹，長谷部友二，八丁信正，
的場泰信，溝田大助

第 29 期理事役職者の選定および会務分担

2024 年 5 月 29 日開催の第 280 回理事会において、理事の中から定款第 27 条第 2 項の規定に基づき会長，副会長，専務理事を選定した。

また，第 29 期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のように決定した。

記

1. 会長等

会 長 西村 拓
副 会 長 奥田 透
副 会 長 堀野治彦
副 会 長 森田孝治
専務理事 小泉 健

2. 理事の担当部門

〔担当部門〕	〔総括する副会長〕	〔担当理事〕
企画・運営業務	奥田 透	白谷栄作，下平達也 弓削こずえ，牧 千瑞
学会誌等定期刊行活動	堀野治彦	吉田修一郎，白谷栄作 弓削こずえ，大西絢子 濱本昌一郎，藤崎浩幸 長坂貞郎，松野 裕 大上博基，山岡 賢
講演会等行事活動	奥田 透	常陸孝一，白谷栄作 下平達也，加藤正明 平松 研
調査・研究活動	堀野治彦	平松 研，白谷栄作 牧 千瑞，吉田修一郎
編集・出版活動	森田孝治	大西絢子，加藤正明

国際活動

堀野治彦

常陸孝一

吉田修一郎

弓削こずえ，平松 研

技術者教育活動

森田孝治

加藤正明，下平達也

弓削こずえ，常陸孝一

大西絢子，長坂貞郎

大上博基，山岡 賢

支部業務

奥田 透

堀野治彦，森田孝治

濱本昌一郎，藤崎浩幸

長坂貞郎，松野 裕

大上博基，山岡 賢

3. 第 29 期常置委員会委員長等

企画委員会	白谷栄作
広報委員会	牧 千瑞
定期刊行物委員会	白谷栄作
学会誌企画・編集委員会	弓削こずえ
論文集企画・編集委員会	吉田修一郎
研究委員会	平松 研
出版企画委員会	大西絢子
行事企画委員会	下平達也
学術基金運営委員会	奥田 透
国際委員会	堀野治彦
学会賞選考委員会	堀野治彦
上野賞選考委員会	平松 研
スチューデント委員会担当	弓削こずえ
JABEE 担当	藤崎浩幸

2025 年度農業農村工学会賞候補の推薦

2025 年度の農業農村工学会賞（上野賞，沢田賞を除く）を，募集要項に則って，推薦書によりご推薦ください。

締切は，2024 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

2025 年度 農業農村工学会賞 募集要項							
賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績			
		農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2019 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2021 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2021 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2023 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2023 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2022 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2019 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人					個人または組織、団体	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2014 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に発表されたものとする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に行った活動とする。	2022 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に行った活動とする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に行った活動とする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に行ったものとする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に行ったものとする。	2022 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2024 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2025 年度(第 74 回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2024 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-3-44 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

2024 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集

農業農村工学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、学術基金の枠組みに新たに持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を追加し、公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

この度、学術基金の枠組みの内、次の 5 枠について新たに援助希望者の募集を行いますので、援助を希望される方は、学会ホームページ(https://www.jsidre.or.jp/format/)より

申請書をダウンロードして、E-mail で学会事務局あてにお申し込みください。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進
- (③と④については 2024 年度はすでに援助済み)

記

1. 申請締切 2024 年 8 月 15 日(木)

2. **援助金額** 申請内容により学術基金運営委員会において援助金額を決定する。
3. **報告の義務** 援助を受けた者は報告書を提出する。
4. **申込み・問合せ**

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階
(公社) 農業農村工学会 学術基金運営委員会
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : new-suido@jsidre.or.jp

農業農村工学サマーセミナー 2024 参加者募集 !

農業農村工学サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー 2024 の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマーセミナーのホームページや会告等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしてみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

1. **主 催** 農業農村工学サマーセミナー 2024 実行委員会
浅野珠里 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
筏津春花 (鳥取大学大学院連合農学研究科)
岩崎隼也 (岩手大学大学院総合科学研究科)
大塚健太郎 (岐阜大学大学院連合農学研究科)
田崎小春 (鹿児島大学大学院連合農学研究科)
高部侑汰 (弘前大学大学院農学生命科学研究科)
鶴田純也 (若鈴コンサルタンツ株式会社)
西村 武 (弘前大学大学院農学生命科学研究科)
三村雪乃 (鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科)

2. **開催方式** 現地、オンラインのハイブリッド

3. **日 時** 現地 : 2024 年 9 月 12 日(木)~14 日(土)

オンライン : 2024 年 9 月 12 日(木)~13 日(金)
開始, 終了時刻は現時点で未定
(決まり次第, サマーセミナーホームページに記載します)

4. **対 象** 学部学生, 大学院生, 若手社会人, 若手研究者
5. **参加費** 未定
6. **企画内容** 未定

【過去の活動内容例】

2023 年度 (ハイブリッド開催) : グループディスカッション 2 題 (「四国の農業農村の特色を話し合い, 他県との違いを探す」, 「耕作放棄地がどのように使われているかを調べ, 新しい使い方を考える」), 街歩き, 現地見学 (松山市内) など

2022 年度 (ハイブリッド開催) : グループディスカッション 2 題 (「専門分野以外の NN 分野を知ろう」, 「サマーセミナーのロゴを作ろう」), 親睦会, 現地研修会 (金沢市) など

2021 年度 (オンライン開催) : グループディスカッション 2 題 (「災害・防災に対して農業農村工学ができること」, 「サマーセミナーで動画を作るとしたら?」), レクリエーションなど

7. **問合せ**

Email : n.n.summer.seminar@gmail.com

URL : <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

n-n-summer-seminar



今年もやります ! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像 ! 2024” (再)

農業農村工学会広報委員会では, 昨年に引き続き, 下記のとおり, 農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. **応募締切** 2024 年 7 月 31 日 (水) 17 : 00
2. **動画の制限時間** 60 秒以内
3. **2024 年度のテーマ** 「ここにあった ! 農業農村の未来」
4. **応募資格** どなたでも応募できます。
5. **応募方法** 動画を YouTube へ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. **審査方法** 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上, 最優秀賞 1 作品, 優秀賞 2 作品を決定する。
7. **賞 金** 最優秀賞 (1 作品) 2 万円
優秀賞 (2 作品) 各 1 万円
8. **アップロード方法**
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTube にアップロードする (9. 参考資料を参照)。

- ③ タグに 3 つのワード (jsidre2024, こりゃ映像, 農業農村) を入れる。

- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。

- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT (new-suido@jsidre.or.jp) 宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報 (氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL)

9. **参考資料**

・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>

・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには
—Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像 ! 2023 結果

最優秀賞：水とともに生きる北信州

長野県北信地域振興局農地整備課 宮嶋裕樹

松嶋奈恵初

<https://youtu.be/x3Wj-FMIbVc>

優秀賞：こんなにも！農業農村～陸月島里島ものがたり～

愛媛県陸月島 林農園 林 秀喜

内外エンジニアリング株式会社 藤原千里

<https://youtu.be/BTRzqmZkYxw>

優秀賞：【土木の偉人】中村哲さん【1分でわかる】

三重大学大学院生物資源学研究科修士1年 加藤沙耶香

https://www.youtube.com/watch?v=m_lEaQdBZxU

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では2024年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

この度、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onagai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）

—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下で CPD が評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD 認定）」の運用が始まるなど、CPD の活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正當に評価するため、2024 年 4 月より、業務運営細則に定める「別表 2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要な CPD 運営体と同等の合計 30 cpd（現在は 20 cpd）となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

（改正後）

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	<u>x1</u>	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	<u>x2</u>	0.5 H	<u>20</u>	－

（改正前）

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	－

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎月テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4 判、1,500 字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第92巻・第93巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字程度)
第92巻第8号 農業水利システムにおける省エネルギー化の更なる推進に向けて (仮)	終了
9号 農業農村工学の魅力発信 (仮)	終了
10号 進化するシミュレーションモデル (仮)	終了
11号 農業農村における野生鳥獣害対策の最前線 (仮)	終了
12号 —	公募なし
第93巻第1号 農業農村工学分野における AI の活用 (仮)	7月10日
2号 —	公募なし
3号 —	公募なし
4号 農村を安全に支えるには (仮)	10月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第93巻第1号テーマ「農業農村工学分野における AI の活用」(仮)

人工知能 (AI) 技術は近年、共有可能なデジタルデータの増加、アルゴリズムの高度化、計算機能力の向上などによって加速度的に発展しています。また AI 関連の技術やフレームワークがオープンソースとして提供されることなどにより、さまざまな分野でその応用が進み、広範な産業領域や社会インフラなどに大きな影響を与えています。

一方、農業分野では農業労働力の主力となる基幹的農業従事者は年々減少傾向にあり、2020年の統計では65歳以上が70%を占め、担い手の高齢化や後継者不足が大きな問題となっています。現在の農業は、生産工程の多くで農業機械をはじめさまざまな技術の導入が進み、省力化が進展していますが、人手に頼る部分もまだまだ多く、一層の生産性向上のためには、ロボット、AI、IoT など先端技術の導入により、作業の省力化・自動化、高度化等の農業のDX化を進めることが課題となっています。このため農林水産省では農業のDX化を推進しており、農業農村工学分野においては、ダムや橋梁などのインフラ点検において、センサーやドローン等を活用した点検・監視が行われつつあり、農業水利施設の維持管理についても、デジタル技術を活用して、日常的な点検や、機能診断、監視の省力

化や、データ分析に基づく保全管理の効率化が進められています。これらの施策の推進により得られたデジタルデータの蓄積と、前述したAI技術の発展は、農業農村工学分野の技術に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。

このような中、本小特集では農業農村工学分野におけるAIの活用を取り上げます。AIは技術革新のスピードが速いことから、現時点での事例を広く共有することは、今後の技術開発や政策へのAIの活用法を検討する上での礎となります。このような観点から、農業用施設の機能診断、各種解析、情報化施工、経験知の継承、防災および事故防止、作物分野と連携したリモートセンシングなど、農業農村工学分野へのAIの活用事例や研究に関する報文を広く募集します。また昨今話題となっている生成AIや説明可能なAIの農業農村工学分野への活用事例や研究に関する報文も歓迎します。

なお、近年のAIは、機械学習、特に深層学習 (ディープラーニング) に基づくものを中心となっていますが、本小特集ではAIを機械学習に基づく技術に限定せず、それ以外の人工知能技術も対象とします。また報文では活用したAIの評価についても論じていただけたらと存じます。

学会誌第93巻第4号テーマ「農村を安全に支えるには」(仮)

農作業を行うため、また、農地や用排水路、ため池、農道などを支えるためには、人が現場に出ることが欠かせません。また、農村空間は、農業者だけではなく、地域住民など多くの人たちが利用する空間でもあります。しかし、残念なことに、農林水産省による「農業用排水路における安全管理の手引」をはじめさまざまな対策が講じられている中でも、農業用排水路やため池での水の事故、高所・法面での転落・転倒、車輛の転覆などによる死亡事故は後を絶ちません。また、豪雨時等に農

地や農業用施設の見回りに出て亡くなる方も根絶できていないのが現状です。

このような事故の対策については、転落防止のための柵の整備、スマート農業やデジタルトランスフォーメーション推進のための作業の省力化・効率化や危険リスクの除去といったハード整備が考えられています。それと同時に、危険に近づかない、安全確保を最優先するといった意識面での対応、危険回避に関する広報の充実など、ソフトな施策の推進も必要であると考え

られます。このように、農村を支える活動の安全を確保しつつ、安全な農村空間を形成することは、農村の振興を図る上で、緊急かつ重要な課題の一つです。

そこで、本小特集では、農村の安全に関する課題の現状分析から、対応策の提案、農村の安全に貢献する新技術の紹介およ

び課題、過去の対応策の評価まで、ハードな整備とソフトな施策の両面から、農村を安全に支えるために必要な技術・施策を、施工現場における知見なども含め産学官民で幅広く検討するための報文を募集いたします。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6 版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2025 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2025 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 93 巻（2025 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含む A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 2024年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第93巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2024年度大会講演会会場でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2022年のインパクトファクター（IF）は2.2と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）

- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）

- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）

- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換、施設園芸）

- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界12カ国からEditor（22名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2024年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・Editors 12カ国から22名

・Editorial Advisors 27名

・Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

• **Managing Editors**

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Naoko OKA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2026 年 6 月まで日本担当)

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 79 回中国四国支部講演会および第 48 回地方講習会の開催案内 (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、第 79 回支部講演会および第 48 回地方講習会を下記のとおり開催するので案内いたします。

1. 日程 (予定)

(1) 支部講演会

日 時 2024 年 10 月 16 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00

会 場 とりぎん文化会館 (鳥取県立県民文化会館)

小ホール, 第 1, 2 会議室

〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町 101-5

TEL : 0857-21-8700

プログラム

受付開始 9 : 30 ~

開会式, 支部賞表彰式 10 : 00 ~ 10 : 25 (小ホール)

特別講演 10 : 40 ~ 12 : 00 (小ホール)

「鳥取砂丘を舞台に自然と人を繋ぎ・分かち合う」
〜心豊かな農ある暮らし〜

石谷依利子 (砂丘 YOGA 代表)

<昼食> 12 : 00 ~ 13 : 00

一般講演 13 : 00 ~ 17 : 00 (小ホール,

第 1, 2 会議室)

(2) 情報交換会

日 時 2024 年 10 月 16 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

会 場 SOURCE BANQUET (ソースバンケット)

(3) 地方講習会

日 時 2024 年 10 月 17 日 (木) 9 : 00 ~ 12 : 00

会 場 とりぎん文化会館 (鳥取県立県民文化会館)

小ホール

〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町 101-5

TEL : 0857-21-8700

プログラム

受付開始 8 : 30 ~

講習会 9 : 00 ~ 11 : 40 講演 3 件 (テーマは調整中)

閉会式 11 : 45 ~ 12 : 00

※ 地方講習会は、一部の講習が Web になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

※ 詳細については、中国四国支部 Web ページにも掲載しております。講演会での発表を希望される方は、Web ページに掲載される情報にもご留意ください。

中国四国支部 Web ページ (<https://www.jsidre.or.jp/tyugoku/>)

※ 小ホールについては、飲食禁止となっておりますので、あらかじめご承知ください。



2. 講演申込み方法

(1) 講演原稿

投稿者は、中国四国支部 Web ページに掲載の「講演原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記の講演会発表原稿提出窓口 (hyodo@tottori-u.ac.jp) までお送りください。「投稿票」は中国四国支部 Web ページからダウンロードしてください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演代表者の方は、必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも 1 名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

原則として、1 人 1 課題です。発表形態は口頭発表です。各講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式になります。

(4) 講演時間

1 課題につき 15 分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、原稿は、モノクロで収録されます。

(6) 原稿の提出締切

2024 年 9 月 2 日 (月) 必着

(7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

鳥取大学農学部 兵頭正浩

〒680-8553 鳥取県鳥取市南 4 丁目 101 番地

TEL: 0857-31-5912 E-mail: hyodo@tottori-u.ac.jp

3. 参加申込み方法

(1) 参加申込書

参加申込みについては、中国四国支部 Web ページに

掲載の「参加申込書」をダウンロードし、所属機関ごとにまとめて、参加申込み窓口 (nouchi-mizu@pref.tottori.lg.jp) までメールでお送りください。その際、メールの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申込み」としてください。

(2) 申込み期限

2024 年 9 月 2 日 (月) 必着

(3) 参加費

・講演会 参加費【一般: 2,000 円, 学生: 無料】

・情報交換会 参加費【6,000 円】

・地方講習会 参加費【一般: 2,000 円, 学生: 無料】

(4) 参加費の納入方法

原則として、参加申込みに併せて銀行口座に全額前納での振込みをお願いいたします。振込手数料については、振込人負担をお願いいたします。また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。なお、振込み後の参加費の返金については、原則として応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

○銀行名 山陰合同銀行 湖山出張所 (108)

○口座番号 (普通) 4529388

○名義人 農業農村工学会中国四国支部鳥取実行委員会
委員長 緒方英彦

(ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴクシコク
シブツトリジツコウインカイ)

(5) 支部講演会、情報交換会、地方講習会 参加申込み窓口・問合せ先

鳥取県農林水産部農業振興局農地・水保全課 川内大輔,
山本大輔, 官能優登

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町 1 丁目 220

TEL: 0857-26-7336

E-mail: nouchi-mizu@pref.tottori.lg.jp

※参加申込みと講演原稿提出窓口は別となりますのでご注意ください。

(6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいませんので、各自での対応をお願いいたします。

第 40 回ファジィ システム シンポジウム/FSS2024 の開催

1. 主催 日本知能情報ファジィ学会 (SOFT)

共催 国際ファジィシステム学会 (IFSA)

協賛 農業農村工学会ほか

2. 開催日 2024 年 9 月 2 日 (月) ~ 4 日 (水)

3. 会場 椋山女学園大学 星が丘キャンパス
〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17-3

4. 問合せ先

FSS2024 実行委員会

E-mail: fss2024_committee@j-soft.org

5. その他

詳しくは、第 40 回ファジィ システム シンポジウム/FSS2024 のホームページ (<https://soft-cr.org/fss/2024/>) をご覧ください。

第 67 回理論応用力学講演会の開催

- | | |
|--|---|
| <p>1. 主 催 日本工学会理論応用力学コンソーシアム
共 催 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 開催日 2024 年 9 月 3 日（火）～6 日（金）</p> <p>3. 会 場 神奈川大学みなとみらいキャンパス
〒 220-8739 横浜市西区みなとみらい 4-5-3</p> <p>4. 問合せ先</p> | <p>67 回理論応用力学講演会事務局（主幹事学会：日本機械学会）
E-mail：nctam67@jsme.or.jp</p> <p>5. その他
詳しくは、第 67 回理論応用力学講演会のホームページ
（https://www.jsme.or.jp/conference/nctam67/）をご覧ください。</p> |
|--|---|

混相流シンポジウム 2024 の開催

- | | |
|--|---|
| <p>1. 主 催 日本混相流学会
協 賛 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 開催日 2024 年 9 月 4 日（水）～6 日（金）</p> <p>3. 会 場 富山大学五福キャンパス
〒 930-8555 富山市五福 3190 番地</p> <p>4. 問合せ先</p> | <p>混相流シンポジウム 2024 実行委員会
E-mail：mfsymp2024@jsmf.gr.jp</p> <p>5. その他
詳しくは、混相流シンポジウム 2024 のホームページ
http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2024/ をご覧ください。</p> |
|--|---|

会員専用サイトをご活用ください



農業農村工学会では、学会ホームページに会員専用サイトを設けています。会員専用サイトでは、最近の学会誌、テーマ別報文、過去の講座・小講座、写真等デジタルアーカイブス、などを掲載しており、内容は定期的に更新していきます。是非ご活用ください。

※会員専用サイトで会員登録情報の更新ができます。

学会ホームページのトップページより、会員専用サイトをクリック

